

2023年1月29日 午前礼拝
「天の御国のありか」 説教者:堺希望伝道師

【引用聖句】

マタイ 4:23~25

23. イエスはガリラヤ全土を巡って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、民の中のあらゆる病気、あらゆるわずらいを直された。
24. イエスのうわさはシリア全体に広まった。それで人々は、さまざまな病気や痛みを苦しむ病人、悪霊につかれた人、てんかんの人、中風の人などをみな、みもとに連れて来た。イエスは彼らをいやされた。
25. こうしてガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤおよびヨルダンの向こう岸から大ぜいの群衆がイエスにつき従った。

【説教要約】

- ①イエス様が地上に来られたことは、すべての革新でした。

マタイ 4:15, 「ゼブルンの地とナフタリの地、湖に向かう道、ヨルダンの向こう岸、異邦人のガリラヤ。

マタイ 4:16, 暗やみの中にすわっていた民は偉大な光を見、死の地と死の陰にすわっていた人々に、光が上った。」

宣教の働きとして、ガリラヤ全土を巡られますが、まさにそれは天の御国が来たということだったのです。

イエス様がおられるところには癒しがあったのです。

昔も今も、不平等、悲惨な出来事や病、苦悩は全地球を覆っています。どうして悲劇が起こるのか、と人々は哲学を追究したり、現実的に皆が平和に暮らせることを求めてきました。その結果が今の世界です。

しかし、聖書が言うことは、それらの原因を解決しなければ本当の解決はありえないということです。

その原因を、聖書は「罪」と呼びます。

創世記 2:15, 神である主は人を取り、エデンの園に置き、そこを耕させ、またそこを守らせた。

創世記 2:16, 神である主は人に命じて仰せられた。「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。

創世記 2:17, しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」

始め、人は愛されて生まれてきました。誰に愛されたかといえば、神によって愛され、特別に創造されたのです。そのエデンの園はまさしく神が真ん中におられる神の国でした。争いも病も悩みもない場所でした。これこそ、私たちが求めてやまないものです。

創世記 3 : 1, さて、神である主が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。蛇は女に言った。「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」

創世記 3 : 2, 女は蛇に言った。「私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。」

創世記 3 : 3, しかし、園の中央にある木の実について、神は、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ』と仰せになりました。」

創世記 3 : 4, そこで、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。」

創世記 3 : 5, あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」

創世記 3 : 6, そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。

しかし、人は自らその身分を捨てたのです。その源である神を捨て、自分をその上に神として置いたのです。神を一番上に置かないこと、これが罪の本質です。

この罪からすべての問題が生まれてきました。死も、病も、悲しみもそうです。

ローマ 5 : 12, そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして死が全人類に広がったのと同様に、——それというのも全人類が罪を犯したからです。

どうして平和だったのにそれを捨てたのか、と私たちには理解に苦しむ部分があるかもしれませんが、しかし、私たちにも罪があるので、与えられている恵みを破壊するのは私たちもアダムやエバと全く同じだということを知らなければなりません。

人が努力すれば世界は良くなる、と信じられている場合があります。そう信じられているからこそ、今の世界があります。しかし、罪がなくなっていないことをこの世界を見れば私たちはすぐに気づくことができます。

自分や人に望みを置いても、それは必ず廃れていくのです。唯一の神に戻らない限り、罪の問題は解決することがありません。また、罪が解決されなければ死や悲しみの解決もないのです。

よく例えられるのは、人は皆生まれながらに心に空洞を持っているということです。そのぼっかりと空いた穴を埋めるために人は生きているのです。信頼できる人で埋めてみたり、日々の楽しみで埋めていたり、仕事の発展で埋めてみたり。その姿は人それぞれです。

しかしその穴は本来、神が入っていた部分なのです。人は神によって造られ、神とともに生きるために造られたので、最も深い部分に神が関わっておられます。しかし神を捨てたので、その穴は空きっぱなしなのです。

②「天の御国」というのはイエス様の宣教のキーワードです。

マタイ 4:17, この時から、イエスは宣教を開始して、言われた。「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」

天の御国とは何でしょうか。

私たちは、「イエス様を信じれば天国に行ける」と信じ、伝道します。死んだ後に行く天国のことなのでしょうか。

ルカ 17:20, さて、神の国はいつ来るのか、とパリサイ人たちに尋ねられたとき、イエスは答えて言われた。「神の国は、人の目で認められるようにして来るものではありません。ルカ 17:21, 『そら、ここにある』とか、『あそこにある』とか言えるようなものではありません。いいですか。神の国は、あなたがたのただ中にあるのです。」

天の御国、あるいは神の国には様々な面がありますが、イエス様が強調されたのは「あなたがたのただ中にある」ということです。目に見えるものや具体的な場所というより心の中の話がされているのです。

イエス様は宣教のはじめに、「天の御国が近づいた」と言われました。もともと、私たちは神とともに生きる存在でした。そしてエデンの園はまさしく神が支配する神の国でした。しかし神を捨てて神から離れた私たちは、もはやエデンの園に帰ることができなくなったのです。

神に対してすべての人が罪を犯したからです。人がどんな手を使っても、どんなに従順であっても、神の国は遠い場所になったのです。それゆえ、人は死後神から最も離れた地獄に行きます。

ではイエス様の言われた「天の御国が近づいた」とはどういうことなのでしょう。それは、人が自分から神の国に戻ることができないので、神の国の方が私たちのところへ来てくださったということなのです。正確には、天の御国の王であるイエス様が直接来てくださったということです。

イエス様はことばで宣教し、また人々の病を癒されました。

マタイ 4:23, イエスはガリラヤ全土を巡って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、民の中のあらゆる病気、あらゆるわずらいを直された。

マタイ 4:24, イエスのうわさはシリア全体に広まった。それで人々は、さまざまな病気や痛み、苦しむ病人、悪霊につかれた人、てんかんの人、中風の人などをみな、みもとに連れ

て来た。イエスは彼らをいやされた。

マタイ 4 : 25, こうしてガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤおよびヨルダンの向こう岸から大ぜいの群衆がイエスにつき従った。

イエス様のことば、イエス様の癒しを見て、噂はどんどん広がります。それはイエス様のなさることに、かつて人が失った神の国の特徴があったからです。それはまるで、罪のない世界のようにだったからです。そこでは病気も苦しみも悲しみもないのです。

イエス様を見るならば、そこに神の国が来ていることが分かったのです。単に病気が治るから騒がれたということもあると思いますが、それ以上に、失われた神の国を見て人々の心が惹きつけられたのだと思います。

神の国というのは、神が支配している心や場所のことを指します。例えば私は国籍は日本ですが、生まれも育ちも台湾なので文化や考え方、つまり心のレベルでは台湾人だと思っています。日本に住んでいて国籍を持っていながら、私は自分のことを台湾人だと思っているのです。

神の国に住むということもまた、場所の問題より先に心の問題が来ます。

ヘブル 11 : 13, これらの人々はみな、信仰の人々として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるかにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり寄留者であることを告白していたのです。

ヘブル 11 : 14, 彼らはこのように言うことによって、自分の故郷を求めていることを示しています。

ヘブル 11 : 15, もし、出て来た故郷のことを思っていたのであれば、帰る機会があったでしょう。

ヘブル 11 : 16, しかし、事実、彼らは、さらにすぐれた故郷、すなわち天の故郷にあこがれていたのです。それゆえ、神は彼らの神と呼ばれることを恥となさいませんでした。事実、神は彼らのために都を用意しておられました。

信仰者の国籍について、聖書はこのように語っています。クリスチャンは死後、天国に行きます。ではイエス様を信じてから死ぬまでの間は何なのかと言いますと、その間も天の御国の民に違いはないのです。

からだは今地上にあります。心はすでに神の国を知っているのです。その神の国とは、イエス様とともに生きることそのものです。

③

黙示録 21 : 1, また私は、新しい天と新しい地とを見た。以前の天と、以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。

黙示録 21 : 2, 私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとを出て、天から下って来るのを見た。

黙示録 21 : 3, そのとき私は、御座から出る大きな声がこう言うのを聞いた。「見よ。神の幕屋が人とともにある。神は彼らとともに住み、彼らはその民となる。また、神ご自身が彼らとともにおられて、

黙示録 21 : 4, 彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである。」

イエス様の奇跡は、将来やってくる新天新地の予告です。私たちは今日の世界が、病や苦しみにあふれていることを知っています。信仰者であってもなくても、それがあります。

しかし、やがて今の世界が完全になくなり、新しく神の国が今度は見える形でやってくる時がきます。そこにはもはや罪がないので、死も、病も、悲しみもありません。

イエス様を信じるといことは、この新天新地で生きられる約束が含まれています。今は、罪の世界にあって、私たちはなお苦しみや病と向き合わなければなりません。しかし最後には、それらが無い世界に生きられるのです。なぜなら、神の国には罪がないからです。

病が治ることが神のいる証拠だと言って、熱心に奇跡を主張する教派があります。逆に、奇跡が偶像になってしまうと言って奇跡について避ける教派もあります。

私は、イエス様につながっているなら、私たちにはどうしようもない問題も、理解できない問題も、必ず解決が与えられると信じています。神様が支配しておられる神の国には、それらの問題がないからです。

ただ、自分が思う通りの時間や方法で解決が与えられるとは思っていません。私は神に造られたのであり、私が神を造ったのではないからです。

日々、へりくだって、イエス様とつながって生きていけたら、それだけで十分と教えられました。